DEC2014, No.4

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第36回日本創造学会研究大会を終えて

豊田貞光実行委員長

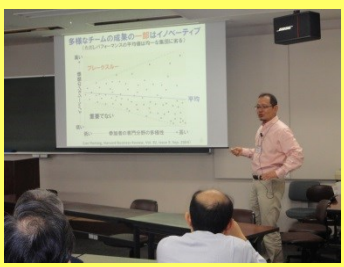
大会テーマ：「体験と創造」

ーどのようなキッカケが閃きの扉を開けるのかー

第36回日本創造学会研究大会は、10月25日－26日に産業能率大学６号館において無事開催され盛況の後、閉幕いたしました。初日の基調講演、パネルディスカッションには、総勢118名（会員54名、非会員64名）が参加され、オーセンティックな質疑応答や新たな試みとして４色ラベルを活用したインタラクティブセッション、パネラーのサイン入り書籍販売など概ね実験は成功したと考えています。

2日目の研究発表は、20名。伝統的な手法、技法の新たな取り組みや多様な領域のフィールドサーベイによる知見創出など垣間見え、充実した発表だったと感じております。ただ、発表者増加が実現できなかったのが次回の課題となりました。広報に関しては、川路理事のご尽力により、学会ホームページへのアップと参加促進、定期的な更新など工夫があり、参加者増に寄与したと思っております。

1．基調講演について



システム×デザイン思考の第1人者慶応大学前野教授に『閃き×協創×幸せ』と題し、閃きのための協創の重要性やメンバー幸福感の関係性を紐解いていきました。

やはり、旬のヒトでした。目からウロコが落ちたという声が多く寄せられました。

世界レベルでイノベーション合戦が繰り広げられる中、あたかもシリコンバレーから発信したかのようなメガヒットの源泉：デザイン思考・システム思考は、従来日本が大事にしてきたチームワークや暗黙知を形式知化する集団討議などがOSだったこと。協創という観点からすると同質性の高い集団（例えば同レベル研究者、技術者など）のアイデア出しより、女性が多いほどアイデアが向上すること。ブレストはポジティブ思考のヒトが多いほどアイデア生成活動に貢献することなどなど、何となくそうだろうなと思っていたことをデータや統計などにより紐解いてくれました。

やはり、当学会のレジェンド川喜田先生や中山先生、高橋先生や國藤先生など先達の思考概念は、見せ方、使い方を工夫すれば世界でエッジを走れることが解りました。（これはかなり主観的ですが）

幸福学に関しては、幸福の４因子「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「あなたらしく」をわかりやすく解説していただきました。さらに幸福学と協創に関する興味深い事例を多くあげていただきました。ポイントは、クリエイティブ・イノベーティブなアイデアを出すために協創することは、そのメンバーが幸福になること。つまり、創造学＝幸福学とである。
お後もよろしかった基調講演でした。（次ページに続く）

2. パネルディスカッション

パネリスト

1）大武美穂子氏

ロボット研究に没頭しながらも認知症の祖母との会話からヒントを得て、共想法を考案した大武先生の独特のワールドが炸裂しました。認知症の方々の対話画像やTVインタビューなどを通じ、氏の強烈な開き直り力を垣間見た気がしました。

2）國廣愛彦氏

下町ボブスレー開発を通じ、オープンイノベーションを実現させた國廣社長は、若く血気盛んな下町工場の経営者で、正に閃きの扉をくぐり抜けている真っ只中。そんなオーラを発信していただけました。

3）松坂たかよし氏

地域コミュニティ、異文化環境を通じ数多の閃き体験をしてきた松坂氏は、融合不能と思えた地域のつながりを言語（日本語・英語）を介し、心と心の結びつきによって丹念に粘り強く解決していきました。時間に関しても粘り強かったです。

4）前野隆司氏（前掲出）

5）司会進行　田村新吾氏

本パネルディスカッションは、「体験の中からいかに新たな発見、ブレイクスルー、新展開が生まれたかを各人から発露していただきました。やはり、様々修羅場をくぐり抜けてきた面々だったので、大変有意義な時間となりました。その有意義な時間を紡いでくれたのが、田村新吾先生です。田村先生の絶妙の投げかけ、新たな糸口への誘い、さらに、新たな試みのインタラクティブセッションでは、会場からのラベルによる珍問、難問にも上手に解釈、解読してパネラーや会場の専門家にバトンを渡していただきました。田村先生なしでは、単なる発散討議で終わっていたと思いますので、大変重要な役割を全うしていただいと感謝しております。

インタラクティブセッション

3. 研究発表

２日目の研究発表は、創造性研究領域における伝統的なタイトルから昨今のエッジを走るタイトルまでバラエティに富んでいました。アカデミックな側面とビジネスの側面で大変基調な研究内容だったと思います。本研究発表に関しては発表論文賞委員のレビューに委ねます。（次ページに続く）

4. 総括と今後に向けて

1）内容

基調講演、パネルディスカッション、インタラクティブセッション等、場所と時間を有効に使えたと思います。ただし、インタラクティブセッションに関してはやり方に工夫が必要です。

2)広報・進め方

広報は、HPアップや理事の方々のご尽力、クリエイティブサロンでの積極的な勧誘、ITコーディネータ協会セミナーページへの掲載（無料）など新たな試みが功を奏したと思っております。また、進め方に関しては、高品質な基調講演者、司会進行役、裏方メンバーの活躍によって満足度の高い大会だったと自負しております。ただし、会員数減より研究大会発表者減が大きな課題だと感じております。

3)教訓と今後の提案

①地道な広報活動と勧誘活動が会員増につながる

②研究大会発表者はある程度の強制力必要

③壇蜜より前隆（当初基調講演は壇蜜さんをリストアップしたが、結局前野先生で一件落着。QCD的に効能絶大だった）

学会賞授賞式

10月25日総会会場にて、学会賞を受賞された方の表彰式が執り行われ、櫻井理事長より表彰状と記念品が送られました。

2013年度論文誌Vol.17
論文賞　佐藤道子氏
共著者：岸あゆみ氏

論文タイトル：
「看護・看護教育における創造性育成」に関する概念分析

2013年度論文誌Vol.17
論文賞　今泉友之氏
共著者：白坂成功氏、保井俊之氏、前野隆司氏

論文タイトル：
親和図と2軸図を用いた構造シフト発想法の主観的評価

第35回研究大会発表賞
受賞者　富田欣和氏

発表タイトル：
「システム×デザイン思考」を用いた創造性教育手法－高等教育および中等教育への適用事例－

▼▼▼　総会報告　▼▼▼

2014年10月25日、会員総会が開催され、2013年決算・事業報告、2014事業活動状況、2015年活動予定、2015年予算案、会則の改正などの項目について理事会より提案・報告され、会員の皆様の賛成多数で承認・可決されました。

2013年度収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	2,420,000	2,436,656	
会費収入	1,421,500	1,737,500	前年度未回収分 入会金・年会費 退会者納付分合算
その他収入	200,000	236,500	論文掲載料 論文誌等販売収入
合計	**4,041,500**	**4,410,656**	

2013年度支出・繰越額

（スペースの関係で総額のみ表示しています）

	収入額 ①	支出額 ②	繰越額 （①－②）
収支	**4,410,656**	**2,073,398**	**2,337,258**

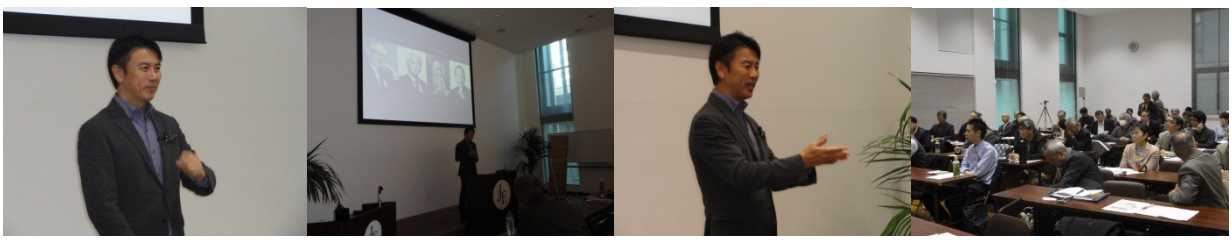
2015年度予算

収 入		支 出	
2014年度繰越分（監査未終了概算）	¥1,944,458	大会費	¥400,000
		会議費	¥90,000
会費収入　（会員数からの概算）		研究会補助費	¥400,000
内訳		交通費	¥100,000
正会員190人×10000円×70%	¥1,330,000	発送費	¥100,000
学生会員15人×5000円×70%	¥52,500	学会誌	¥350,000
賛助会員　2団体　30,000円×2	¥60,000	NL・メディア作成費	¥250,000
新入会者入会金約15名分 （2000×10、1000×5）	¥25,000	事務局費	¥350,000
		名簿台帳類管理費 （規約、名簿、会費収納簿、ITｱﾄﾞﾚｽ等管理）	¥200,000
論文掲載料	¥180,000	ホームページ管理費	¥100,000
販売等雑収入	¥30,000	事務所設備費 （光熱費、PC回線使用料、OA機器使用保守費等）	¥120,000
		学会賞準備費	¥30,000
		電話使用料	¥40,000
		国際会議準備費	¥200,000
		予備費	¥891,958
	¥3,621,958		¥3,621,958

▲▼▲2014年 12月6日第34回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

講演会：「自分の未来を創る Self-Innovation & Challenge」

講演者：前刀禎明　㈱リアルディア　代表取締役



スティーブ・ジョブズは「自分の人生を生きろ」と問いかけた。ソニーの井深大も「たった一遍の一生だ、自分しか出来ないことは何だ」と異口同音のことを述べている。人生に正解はない。今日は人生をデザインする力、セルフ・イノベーションについて述べたい。ジョブズが買収したピクサーでは「創造性とは人生の問題を解決すること」と定義している。そして、組織として、どう創造するか、Collective Creativityを追求した。その要素として、1.誰とでも自由にコミュニケーションできる、2.誰でも気兼ねなくアイデアを出せる、3.最新技術情報がある、環境づくりを示した。

一方、ジョブズは、「本質的な次元で人の心を動かす」ことをめざした。

“From the creators of iPod”(iPodを創ったクリエーターから)というメッセージでアップルを進化させた。彼らに共通するのは「物事を変えた時、人間を推進させる」という点である。その推進力とは、「自分の創造性を信じている人が世界を変える」、「変えられると本気で信じる人が世界を変える」ということである。井深、盛田、ディズニー、ジョブズがそうだった。

さてここで、創造された商品について考えてみよう。「顧客満足だけではなく期待超越度“Exceed Expectations”が感動を生む」ということである。そして、進化を続けることだ。では、セルフ・イノベーションはどうであろうか。人生を創造するスイートスポットは、自分、ライバル、必要性の重なりにあり、自分しか出来ない、しかも確実に求められていることを選ぶべきだ。Multiple intelligences(多重知性)の一角として、自分の強みを生かすには、1.感じる力（感性）、2.創る力（創造力）、3.人を動かす力（共感力）が必要である。共感力とは、いかに弾みをつけて人々を引き込むかである。iPod miniの場合、その要素は、1.強烈なメッセージ（“Goodbye MD”）、2.需要喚起(iPodを聴いて踊る)、つまりライフスタイルを感性に訴える。3.購買欲求の助長（カラーコーディネート）である。特に初物はCustomer education(顧客教育)が大事だ。実は井深ソニー時代にはやっていたことだ。設立趣意書にある「他社の追随を絶対に許さざる境地に独自なる製品化を行う」という強い意志で断行した。そのためには研ぎ澄まされた感性がないといけない。テクノロジーとリベラルアーツの接点に立ち、人を感動させる感性の訴求だ。創造力とは、Beyond the logical thinking(論理を超越した感性)とアナログの世界で、Sense of wonderの気持ちで、発散収束を繰り返す行動だ。その成果をジョブズのやり方で示そう。彼は「純粋に良いもの」（Genuinely better）を生涯追求した。「質感」、「妥協なきこだわり」、「史上最高のもの」を表現し続けたのだ。そのためには五感を磨くことを忘れてはいけない。Creative intelligence(創造的知性)を磨くことだ。物事をよく観察し、自問自答し、実験をする。そして違う価値観の人に伝え、ブラッシュアップ。それらすべてを関連付ける力の5つが肝要だと考える。共感させ、想像させ、自発に導くのだ。人は、やらせ感では動かない。明日の自分には無限の可能性があると信じてセルフ・イノベーションを続けよう。

（記事: 理事 田村新吾）

ワークショップ：「ビッグデータ発想法ワークショップ」

講師：高橋　誠 氏　㈱創造開発研究所代表 日本創造学会理事
木崎伸也 氏　アイエックス・ナレッジ㈱シニアマネージャー

新聞に「ビッグデータ」という言葉を見ない日はない。今やビッグデータはビジネスに欠かせないツールとなった。基本的にビッグデータはそのデータを分析して消費者の動向を知るなど「分析的使用」が基本といえる。このビッグデータを発想のヒントに使う「ビッグデータ発想法」を、IT大手のアイエックスナレッジと開発し、今回のクリサロでそのワークショップを実施した。

ビッグデータ発想法とは

ツイッターには毎日何千万の人々の、膨大なつぶやきが集積している。多様な人々のこのつぶやきを、発想のヒントに使えないかと考えたのが「ビッグデータ発想法」である。創造技法の発散技法を、私は自由連想法、強制連想法、類比発想法の3種に分けた。（次項につづく）

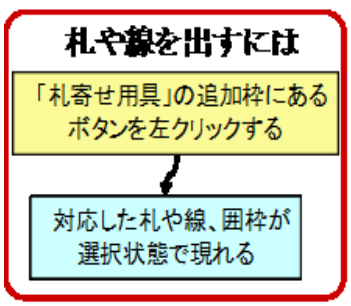
その進め方は、パソコン、モバイル端末などを使って、以下の流れで実施する。
1. 課題となるテーマを決定。
2. テーマに則した検索ワードをいくつか考える。
3. 検索ワード関連のツイッターワードを「動詞」「名詞」「形容詞」別に収集、発想用辞書を作成。
4. 発想用辞書を用いて、テーマに関するアイディアを次々に発想する。

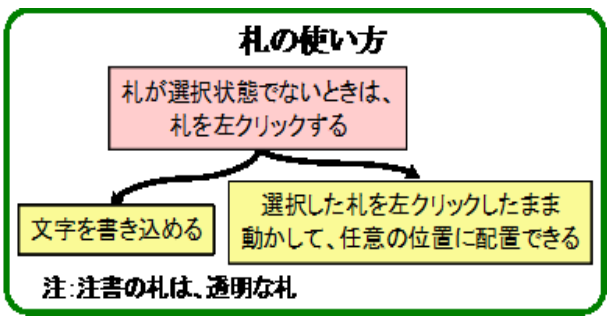
ビッグデータ発想法ワークショップ

12月6日のクリサロは高橋と、アイエックスナレッジ㈱の木崎伸也・営業企画部シニアマネージャー、会員の水嶌友昭さんの御協力で実施した。初めに私が発想の基本となる考え方や進め方を紹介。つぎに木崎さんがビッグデータ発想法の進め方を紹介し、2～3人でパソコンを囲んでワークショップに入った。
最初は、個人テーマで「小学生向きの新しいオモチャのアイディア」、次はチームテーマで 「外国人観光客向け、渋谷での『おもてなしイベント』企画」とした。全員で発想し最後に、皆のアイディアを発表してもらった。大変ユニークなアイディアが続出し、大いに盛り上がった。 （記事：理事 高橋誠）

会員考案の創造性ツール紹介：ソフトウエア 「札寄せ用具」

考案者：片平彰裕会員





自作ソフトの「札寄せ用具」を、会員の皆様に便利なツールとしてクリエイティブサロンでご紹介しました。これは、ポストイットのような「札」と「枠」、「線」を、エクセルのシートに簡単に書き込むためのソフトです。書き込んだ「札」と「枠」には文字を記入でき、それらをマウスで自由に動かせます。そして札に書いた文字はエクセルのセルに一括してコピーでき、その逆も出来ます。
今回は、ソフトの使い方を実演しながらご紹介し、用途の提案も行いました。用途としては、集めた情報を基に案を考える、自分の考えをまとめるなどの各種思考法のツールとして利用でき、文章の構成を行う「こざね法」をパソコンで行うこともできます。また画面をプロジェクタ等で大きく写して、会議での発言を整理することの有効性もご紹介しました。この「札寄せ用具」はウェブサイト「第一考舎」の「図考室」から無料でダウンロードできます。「第一考舎」はGoogleやYahooで検索可能です。 （記事：会員 片平彰裕）

※自作の創造性ツールを紹介したい会員の方は、事務局までご連絡下さい。

◆◆◆◆経営関連学会協議会 第７回シンポジウム◆◆◆◆

＝企業のイノベーションの進め方＝

経営関連学会協議会担当理事：高橋　誠

■　経営関連学会協議会とは

経営関連学会協議会は、日本学術会議に所属する「経営学」関連の60学会の連合体で、全構成メンバー総数は約2万人、日本の経営学研究者はほとんど所属しています。日本創造学会も加盟し、私と徐理事が評議員になり、私は企画担当の理事を務めています。本年度は、私の企画で全会員対象にネットで「明日の日本企業の経営」の在り方に関するアンケートを実施、その結果を踏まえ第7回シンポジウムを実施しました。

■第7回シムポジウムの概要

テーマは「日本企業のイノベーションの進め方」で、11月23日に明治大学で協議会関係者・経営学研究者・企業関係者・大学生など約60名の参加で実施されました。日本は世界のグローバル化、長期的な経済不況など、内外の課題に20年に渡り対応できず、低迷を続けてきました。本シンポジウムは、アンケートで捉えた日本企業の課題解決のためのアイディアを各方面からいただくのが狙いです。

基調講演は、組織の革新思考「デザイン思考」の日本の第一人者、慶應義塾大学大学院の奥出直人教授に「企業にイノベーションを起こすデザイン思考」についてお話しいただきました。
続くパネルディスカッションは、パネリストに奥出教授に加え以下の、研究、行政企業、マスコミの4者に日本企業のイノベーションについて提言をしていただきました。

・行政　：経済産業省　産業技術環境局　研究開発課課長　渡邊昇治氏
・企業　：㈱テックゲートインベストメント代表取締役（元ソニー取締役）　渡辺誠一氏
・マスコミ：日本経済新聞社　編集局企業報道部　編集委員　安西巧氏

各方面の第一線の方々が、パネラーで大変活発に議論が進み、参加者からも高い評価をうけました。経営関連学会協議会は日本の経営学の中心になる存在なので、日本創造学会も引き続き連携をしてゆくことが大切と考えます。

2015年創造性関連国際会議情報

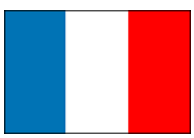
国際担当理事：徐方啓・樋口健夫

2015年に開催される主要な創造性関連の国際会議を紹介致します。
参加希望の方は、自身にて直接主催者へのアクセスをお願い致します。また、これらの会議の内容、予定は、変更、順延、キャンセルもありえますので、自己責任で内容のチェック、確認、費用の支払いを行って下さい。

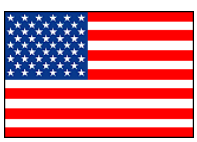
第3回デザインの創造性国際会議　開催日：1月12－14日
主催：インド科学大学　開催地：インド　バンガロール　会費：$600　学生$500
アクセスURL　http://www.cpdm.iisc.ernet.in/icdc2014/#/overview.php

第5回ロイファナ大学企業家精神会議：「創造性とイノベーション」
開催日：1月15－17日　主催：ロイファナ大学　開催地：ドイツ　リューネブルク
会費：€250　学生€100　アクセスURL http://www.lce2015.de

第4回ICIER国際会議：「起業家教育とトレーニング」 開催日：1月29－31日
主催：インド経営大学バンガロール校、開催地：インド　バンガロール
会費：＄260　学生＄65
アクセスURL http://www.iimb.ernet.in/icer-iimb-international-conference



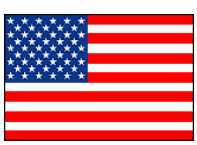
第一回組織の創造性国際会議、開催日：3月26－27主
催：ARTEM　開催地：フランス　ナンシー　会費：　€340、博士課程学生€245
アクセスURL http://artemocc2015.sciencesconf.org/



2015年コンサルティング創造性協会(ACC)全国大会　開催日：4月10－11日
主催：ACC　開催地：米国テキサス州　サン・アントニオ
アクセスURL http://www.creativecounselor.org/Conferences.html

第13回創造性とイノベーション国際会議、開催日：4月15－19日
主催：CREA　開催地：イタリア　セストリ・レバンテ
会費：€2330（宿泊代込、シングルルーム）
アクセスURL http://www.creaconference.com/en/

第4回IAMSR国際会議：経営における霊性と創造性　開催日：4月23－25日
主催：ESADEビジネススクール
開催地：スペイン　バルセロナ　　会費：€490（早期申込み割引€390）
アクセスURL http://www.esade.edu/homesite/eng/scmwc/



Creative Problem Solving Institute 2015　開催日：6月17－21日
主催：アメリカ創造教育財団　開催地：米国ニューヨーク州立大学バッファロー校
アクセスURL http://www.creativeeducationfoundation.org/

ICIE2015会議：創造性－イノベーションの挑戦　開催日：7月1－4日
主催：国際教育イノベーションセンター　開催地：ポーランド　クラクフ
アクセスURL http://www.paris.icieconference.net/

KICSS2015（知識・情報・創造性支援システム）　開催日：11月12-14日
主催：KICSS（知識情報創造性支援学会）　開催地：タイ　プーケット
アクセスURL:後日公開

2013-14年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第5回日本創造学会著作賞は2013-2014年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は6月末までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレターの巻末に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。（著作は希望者には1冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので新品同様での返却はできません。）

詳しくは、下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。なお、2014年までの会費納入が確認できた方のみ、応募資格があります。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「学会賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ホームページまたはニューズレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容量を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。

[応募手続き]

Ⅰ. 自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内（3千字以内）にまとめたもの3部（著作のオリジナルな点を明記する）を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。

※応募書類・著作・資料の返還は行わない。（著作返還希望者はエントリー時に申し出る）

Ⅱ. 他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる（寄贈でも良い）。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。

※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか（下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する）。
   - 他者の研究に引用されている。・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
   - 新聞・雑誌等の書評で紹介されている。・海外で翻訳されている。
   - インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と啓蒙部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

◆◆◆新入会員紹介◆◆◆ ※申込み順

（個人情報が含まれますので、Web版では削除しました）

2015年クリエイティブサロン

2015年度のクリエイティブサロンは1月17日（土）、3月28日（土）、5月、7月、9月、12月（いずれかの土曜日に設定）に開催が予定されております。

開催の際には学会登録アドレスへのご案内の配信、学会ホームページでの広報を行っており、申込みが出来ます。

クリエイティブサロンは一般にも開放されており、会員・非会員を問わず誰もが参加できるサロンとなっております。（会員は参加費無料、非会員は500円／懇親会希望者は実費）

創造性をキーワードに、毎回各方面から多彩なゲストを迎え、多くの方々の交流の場としても盛り上がりを見せています。

学術団体の日本創造学会だから企画できるクリエイティブサロンに、是非ご参加下さい。

変更ありませんか？

現在日本創造学会に登録している情報が変わる方は、事務局までお知らせ下さい。

特にメールアドレスが変わる場合、学会から発信された情報が届かなくなりますのでお気をつけ下さい。

住所・所属先名称・所属先住所・役職・電話番号メールアドレス等

※皆様の個人情報は日本創造学会の会員登録用のみに使用され、情報は厳重に管理されます。

事務局メッセージ

産能大自由が丘キャンパスで開催された第36回日本創造学会研究大会は、皆様のご協力により盛況のうちに終える事が出来ました。会場がコンパクトだったので、参加者の一体感が高まり、会場は熱気に溢れました。参加して頂いた会員・一般の皆様、実行委員長をはじめボランティアで大会を支えて下さった産能大の皆様に深く感謝致します。 来年は大阪です！

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2014年12月発行（№4）
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp

日本創造学会第5回著作賞エントリーフォーム

（2013年－2014年出版）

著作賞選考規定をよくお読みの上、ご応募下さい

氏名　　印

所属

いずれかに○
（単著 / 共著 / 編著 / 監修）

住 所

電 話　　（　　）

書名

E-mail　　@

出版年月日　20　　年　　月　　日

出版社名

応募部門　一つに○　（学術部門 / 啓蒙部門）

著作推薦の理由

日本創造学会著作賞は応募基準を満たし、適正な応募手続きによりエントリーされた著作を対象に、学会賞委員会で厳正な審査を行います。